

## 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

人格の完成をめざし、民主的な社会の形成者として、個人の価値を尊び責任を自覚し、次代の日本をリードする人材を育成し得る高等学校

強き信念(まこと) と 高き理想(のぞみ) を持つ生徒が育つ高等学校

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校
2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとおり、豊かな人間性を涵養する学校
3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

## 2 中期的目標

## 1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校

- (1) 新たな大学入試制度に対応するとともに、次期学習指導要領を見据えた教育課程の編制と授業の充実を図る。
  - ア 主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。
- (2) グローバル・リーダーズ・ハイスクール (GLHS) としての学力向上に係る内容の充実を図る。
- (3) 進路指導年間計画を充実させるとともにキャリア教育の充実を図る。
  - ア 年間計画の充実と一層の進路指導の情報提供に努める。
  - イ 国公立大学志望90%という生徒の希望進路の実現を支援する。
    - ※国公立進学率を80%以上に引き上げるとともに全体の目標進学率の向上を図る。
- (4) 英語コミュニケーション能力の育成
  - ア 英語4技能(聞く、話す、読む、書く)を高いレベルでバランスよく身につけさせるために、4技能統合型授業を導入し、実践的英語力の向上を図る。
- (5) グローバル化対応・ICT化対応の教育の推進
  - ア 授業におけるICT化及びアクティブ・ラーニングを推進する。

## 2. 知・徳・体の調和のとれた教育をとおり、豊かな人間性を涵養する学校

- (1) 学習と学校行事・自治会活動・部活動を両立させうる生徒を育成する。
  - ※1年次部活動加入率90%以上の維持を図る。・・・オリエンテーション・入学式・HR等を通じての指導を継続する。
- (2) あらゆる場で、人を支える意識・人権尊重の意識の向上に努める。
- (3) 図書館の活用促進・読書指導の充実を図る。

## 3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

- (1) 授業における課題研究活動とボランティア体験活動など、社会貢献活動の充実と発展を図る。
- (2) 海外派遣研修や海外の高校による学校訪問(受入)等により、国際感覚のさらなる向上に努める。
- (3) 周辺地域、学校の教育活動に関連した関係諸機関との連携を学校の教職員・生徒があらゆる場面で充実させていく。
  - 特に生徒に関しては、地域ボランティア活動を積極的に推奨する。
  - ※ 生徒のボランティア参加率を55%以上に引き上げる

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、自己実現の達成を図る学校	<p>(1) 学力の充実と進路希望の実現</p> <p>ア 授業などの学習指導方法の更なる工夫と改善を進める。</p> <p>イ 生徒の自学自習力の育成に努める。</p>	<p>ア・教師力の向上を図る。 企画経営会議（首席、研究開発部長、国際教育部長、情報部長）が中心となり、①～④に組織的に取り組む。</p> <p>①日常的な授業見学（バディシステム、スーパーティチャー制）や研究授業の実施などにより、自らが積極的に日々授業改善に取り組む組織を構築する ※授業アンケートの実施〔7月・12月〕とその分析及び課題解決</p> <p>②学習到達度の低い生徒に対する授業の工夫や制度の改善、補習・講習の充実に努める。</p> <p>③校内教職員研修の充実 ※経験の少ない教員に対する研修 1. 経験豊かな教員による個別研修 2. 定時制教員や他校教員との合同研修 ※進路指導に係る研修の開催</p> <p>④校外・海外研修への参加増進 ※教職員の70%が海外研修・宿泊研修に参加した経験を持つ。(マレーシア・シンガポール・アメリカ・イギリス・東京・京都等)</p> <p>⑤教員の働き方改革を促進 校務のICTをさらに進める</p> <p>イ・SSH事業の推進とコアSSH校としての取組みの充実を図る ①文理学科にかかる1年全員必修の「まこと」の充実 ②「サイエンス探究」(2年後期から3年前期・文理学科)の充実 ③全国規模の数学発表大会(マスフェスタ・8月)・中学生対象数学講座実施を含めた取組みの充実 ④グローバルリーダーズハイスクールとしての取組みの充実を図る。 ※各種研修、サマースクール(2年京大研修(7月)、1年阪大研修(8月))、1・2年集中セミナー(12月)の実施と学生科学賞や科学オリンピック等への参加を推進する。</p>	<p>・授業アンケートによる肯定的評価 85%以上 (29年度は、2回平均 84.5%)</p> <p>・学校教育自己診断での教職員・生徒の肯定的評価 82%以上及び実施内容 (29年度は、80.4%)</p> <p>・実施回数の達成度とアンケートによる充実度(29年度は、個別研修8回・合同研修5回実施、進路研修は31回実施した。それらを上回ることが目標)</p> <p>・参加割合の達成度 70%を維持 (29年度は 70.3%が参加経験)</p> <p>・ICT活用率の向上 (30年度学校教育自己診断の項目を一部変更して、検証・分析する)</p> <p>・達成度(実施回数も含む)、コンクール・コンテスト受賞、学校教育自己診断によるSSH行事の肯定的評価 前年度以上 (29年度 生徒 71.9%、保護者 89.2%)</p>	
2 豊かな人間性を涵養する学校	<p>(2) 豊かな人間性の涵養</p> <p>ア 授業、学校行事、自治会活動、部活動、国際交流事業や、関係諸機関との連携を通して、生徒一人ひとりに、生き方やあり方を探求させ、豊かな心と規範意識を醸成する。</p>	<p>ア 規範意識の醸成 ①あいさつの励行と服装指導</p> <p>②個に応じた遅刻指導と教育相談体制の充実 ※全教員当番制で遅刻指導を実施。 ※学校独自のスクールカウンセラーの配置の継続(年間12回) ※教育相談委員会に管理職、学年主任が出席し、個別に支援の必要な生徒のアセスメントを迅速に行う。</p> <p>③あらゆる教育活動の場において、人権感覚を育成する。特に「いじめへの対応」の学校信頼度を上げるとともに、「人権尊重の大切さについて学ぶ」機会を増やす。</p>	<p>・達成度、保護者、外部からの評価</p> <p>・遅刻回数 2684回(27～29年度平均)以内の達成 ・配置の継続と回数・内容の充実度、アンケート(相談件数 29年度 87回)</p> <p>・達成度、内容の充実、学校教育自己診断での肯定的評価、前年度を超える(「いじめ対応の信頼度」…29年度 85.5%、「人権尊重の大切さを学ぶ機会」…29年度 83.9%)</p>	

<p>3. 国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校</p>	<p>(3) 社会貢献活動の推進</p> <p>ア 地域や社会の課題を発見し、グループで解決に向けて挑戦する人材を育成する。</p> <p>イ グローバルな視点で物事を見つめ行動できる力を育成するとともに、幅広い教養と英語力を身につけ、問題発見・解決に向けて主体的に取り組む、使命感を持ってリーダーとしてグローバルに貢献できる人材を育成する。</p>	<p>ア 社会貢献活動の充実</p> <p>①課題研究の充実。1年全員履修の「まこと」の成果をすべての教科に波及させる。</p> <p>②ボランティア体験活動への参加。</p> <p>イ 国際交流の推進</p> <p>①海外生徒派遣研修(豪州、シンガポール、アメリカ)や姉妹校(英国ペンングライス高校)との交流、来日高校生との交流の実施</p> <p>②イングリッシュキャンプ(3月)[大阪大学在籍の留学生との交流等]の開催</p>	<p>ア</p> <p>・実施の有無と充実度(授業アンケート等)の向上 (授業満足度 29年度 84.5%)</p> <p>・生徒の参加率 55%と充実度(アンケート等)(29年度参加率 52.7%)</p> <p>・実施の有無と充実度(学校教育自己診断・アンケート等)の向上</p> <p>※項目「国際教育の取組みは評価できる・役に立つ」(29年度保護者 91.1%、生徒 80.2%)</p>	
--------------------------------	---	--	--	--